



©Mari Kusakari

大木 麻理

第6回

# オルガニストの 読書

**皆** さま、お変わりありませんでしょうか。ホールオルガニストの大木麻理です。「オルガニストの○○」、今回のテーマは「読書」。

私は読書が好きですが分野にこだわりはなく、内容はもちろんのこと、タイトルやジャケットが気になったものを心赴くままに読んでいます。

本を読むことの一番の魅力、それは周りの雑音が耳に入らなくなり、自分と向き合う時間をどのような空間でも作り出せることだと私は思います。一種の瞑想状態と表現することができ、自分とその世界の一部になったと感じる爆発的な集中力は、音楽をしている時にも共通すると思っています。

これまでに読んだ本は数知れず。今回はその中でも特に思い入れが強い、さくらももこのエッセイをご紹介します。小さい頃から、日曜日の夕方に放送されるアニメ「ちびまるこちゃん」は欠かさず見ていましたが、彼女の書くエッセイに出会ったのは高校生の時。図書館の棚

にあった『さるのこしかけ』を何となく手に取ったのがきっかけでした。こんなに笑えるエッセイはあるのか……と夢中になり、他のシリーズも読み始め、気が付いたら出版されているものはほとんど揃えていました。

留学先のドイツに持っていった、唯一の日本語の本はこのエッセイ集で、それぞれの本を何百回・何千回と読み返し、今やポロポロになってしまっていますが私の宝物です。

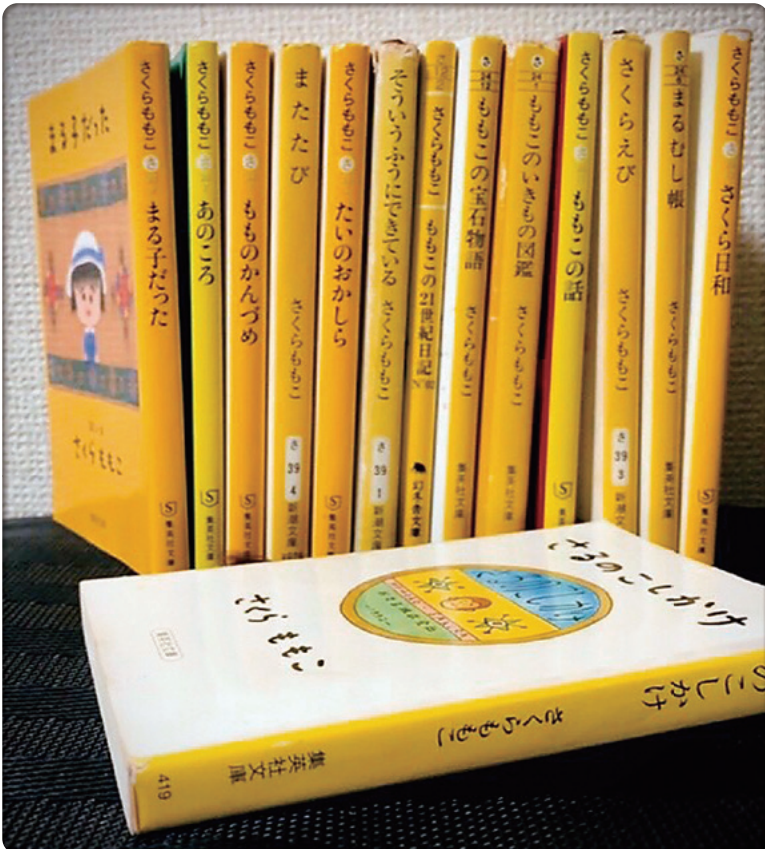
さくらももこ作品は、どうしてこんなにも私を(もちろんたくさん読者の方を!)魅了するのか考えることがあります。素晴らしい文章力やテンポの良さ、登場人物の際立ったキャラクターなど、理由はいろいろあると思いますが、誰もが子どものころに当たり前に見ていた世界や、素直に感じていたことを、大人の言葉で瑞々しく描いているところ、それがたとえ不格好な感情であっても、しっかりと向き合っていること。それが今の私が考える彼女の作品の魅力です。ただ笑えるだけではないのです!

実は同じ静岡出身ということで、大

変おこがましいですが、いつか……いつの日かお目にかかることができる!!と勝手に信じていました。それは叶わぬ夢となつてしまいましたが……。

「どんな状況でも楽しむことが人生

を有意義に過ごすコツ」とさくらももこさんは言っています。世界的にまだまだ厳しい情勢が続きますが、ポジティブに生き、苦境も楽しめる、そんな風を毎日過ごしていきたいと思っています。



私の大切な、さくらももこコレクションです。何回読んだかわかりません! 実はあと数冊持っていないものがあります。なんとしても手に入れたいです……!